

やまぐちっ子学力向上だより

第 9 4 号 H30.6.19
山口県教育庁義務教育課

全国学力・学習状況調査・4月確認問題の結果を受けて

~子どもたちの課題克服に向けて全校が一丸となって取り組みましょう~

全国学力・学習状況調査、4月確認問題の実施に際しては、調査の円滑な実施や採点・入力業務などに御尽力いただき、ありがとうございました。

さて、調査結果を受けて「次の一手」はお考えでしょうか。当然のことながら、現在の小学6年生、中学3年生の結果は、これまで積み上げられた結果です。該当学年、該当教科だけの問題ではないはずで



また、課題克服のために、県内の学校が全て同じ対応をすればよいというものでもありません。一例を挙げると、朝の学習の時間を充実させる学校やICTの活用を力を入れる学校、授業で新聞を活用する学校もあります。目の前の児童生徒の実態を踏まえ、各学校の「最適解」を探しましょう。

誤答をもとに授業を振り返りましょう

中学校数学B問題の②では、右のような問題が出題されました。このうち、(2)は「はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる」という海斗さんの予想が成り立つことの説明を完成しなさい。」という問題でした。

正答は、 $4(n-3)$ と計算した上で、「 $n-3$ は整数だから、 $4(n-3)$ は4の倍数である。」と説明できた場合です。これらの説明がなく、 $4(n-3)$ のみ答えた場合は準正答となっています。

また、 $4n-12$ と計算した上で、「 $4n$ 、 12 が4の倍数で、4の倍数の差は4の倍数だから、 $4n-12$ は4の倍数である。」と説明しても正答です。しかし、 $4n-12$ のみでは誤答です。つまり、 $4(n-3)$ のみでは準正答で、 $4n-12$ のみでは誤答ということです。

この違いは、4で括っているか、括っていないかなのですが、後者の生徒は、「4で括らなければ、4の倍数を表していることにならない」ことを理解していないと推測されます。

こうした誤答をもとに、授業の中で、具体的な数を用いて、4の倍数であることを確かめることや、「 $4n-12$ は、4の倍数と言えるのか？」など考える機会が確保され、生徒が腑に落ちているかどうか確認することが大切です。日頃の授業を見直す材料になりそうです。

② 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。

図1

はじめの数 ○ 4をひく ○ 3をかける ○ はじめの数 をたす ○ 計算結果

海斗さんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が5、6、-1のときは、それぞれどのような計算になります。

計算の例

はじめの数が5のとき

5 4をひく 1 3をかける 3 計算結果は8になる

はじめの数が6のとき

6 4をひく 2 3をかける 6 計算結果は12になる

はじめの数が-1のとき

-1 4をひく -5 3をかける -15 計算結果は-16になる

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) はじめの数が10のときの計算結果を求めなさい。

(2) 海斗さんは、前ページの計算の例の計算結果がどんな数になるかを調べています。

調べたこと

5のとき	$8 = 4 \times 2$
6のとき	$12 = 4 \times 3$
-1のとき	$-16 = 4 \times (-4)$

海斗さんは、上の調べたことから、はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になると予想しました。

はじめの数が3のときは、計算結果は0になる。
 $0 = 4 \times 0$ なので、このときも4の倍数になっている。

「はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる」という海斗さんの予想が成り立つことの説明を完成しなさい。

説明

はじめの数として入れる整数をnとすると、計算結果は、

$(n-4) \times 3 + n =$

英語予備調査が実施されました

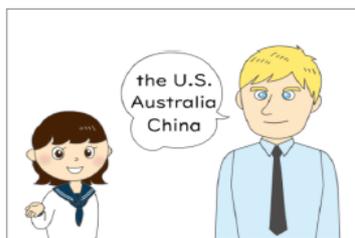
「全国学力・学習状況調査」において、来年度から中学3年生を対象に英語が導入されます。先日、全国で実施された予備調査の問題が公表されました。新聞報道などにおいても「英語で応答 会話力問う」や「発信力重視」などの見出しで大きく取り上げられており、注目の高さがうかがえます。

特に、「話すこと」については、パソコンで動画を見ながらマイクに録音する方法で、15分程度行われました。出題では、日常生活で起こり得る場面を再現しており、実際のコミュニケーションに役立つ英語の習得を目指す方向性となっています。

また、生徒が答える質問紙では、「与えられた話題について即興で話していたかどうか。」

や「英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を話していたかどうか。」などについての質問があり、これまで以上に授業場面で話す時間の確保が求められています。詳しくは、国立教育政策研究所Webページを御覧ください。

大問2 あなたは、ナオミと、イギリスから来たリチャード先生の3人で話をしています。まず、ナオミとリチャード先生が、2人で話している場面から始まります。その後、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは、始めます。



R: I want to visit three countries: the U.S., Australia, and China.

N: Why do you want to go to the U.S.?

R: Because I want to see a baseball game there. I'm interested in baseball.

N: I see.

R: And I want to go to Australia again.

N: When did you go?

R: Two years ago. It was a lot of fun.

N: Oh, I want to visit Australia.

R: Great!

(2人が画面の先の生徒の方を見る)

N: Well, do you have any other questions for him?

話すこと (問題の一部)

国研 英語予備調査

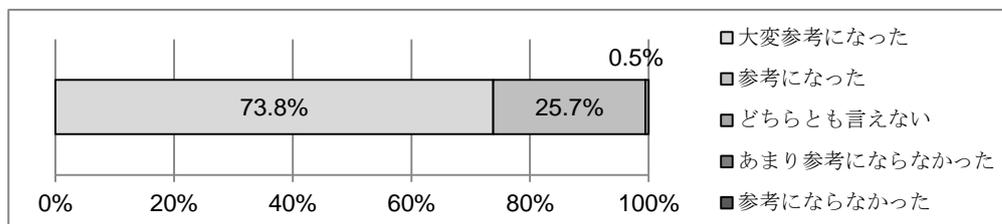
検索

ミドルリーダーレベルアップ研修の様子

5月17日のミドルリーダーレベルアップ研修には、180名以上の先生方の参加があり、國學院大学 田村 学氏による講演や、「校内への本研修の復伝方法の検討」「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた校内研修」などの協議を行いました。

講演では、授業場面における子どもたちの具体的な姿をもとに、「深い学び」を「4つのタイプ」「5つのイメージ」に整理し、紹介されました。子どもたちが授業中や授業後に、対話や自問自答を繰り返すことで、知識・技能が相互に結び付くことや、より高次の概念に高まること、さらには、知識が目的や価値とつながることの重要性などを熱く語られました。

参加者からは、大変参考になったという意見が多く寄せられました。ミドルリーダーの



先生方には、御自分の授業を見直すだけでなく、各学校の中核として研修などを推進していただきたいと思っております。

今後の研修会の予定

- 管理職リーダーシップアップ研修 (7月31日) 山口県健康づくりセンター
- ベテラン教員ガイダンス力アップ研修 (8月3日) 山口県教育会館
- 若手教員スキルアップ研修 (8月23日~24日) 山口大学教育学部附属山口小学校

